

2018年台風第21号

強い台風がもたらした高潮の被害

- 四国・近畿地方に暴風をもたらし、建物屋根の飛散や大規模な停電などの被害
- 大阪湾周辺で記録的な高潮が発生し、関西空港などに浸水被害

■台風21号による被害

- 2018年9月4日12時に中心気圧950hPaの非常に強い台風として徳島県南部に上陸後、淡路島を通過し、神戸市に再上陸
- 大阪の潮位観測所では、1961年の第二室戸台風による過去最大記録2.93mを上回る3.29mの最大水位を観測。その他の大阪湾周辺の観測所でも、過去の記録を更新する水位が観測



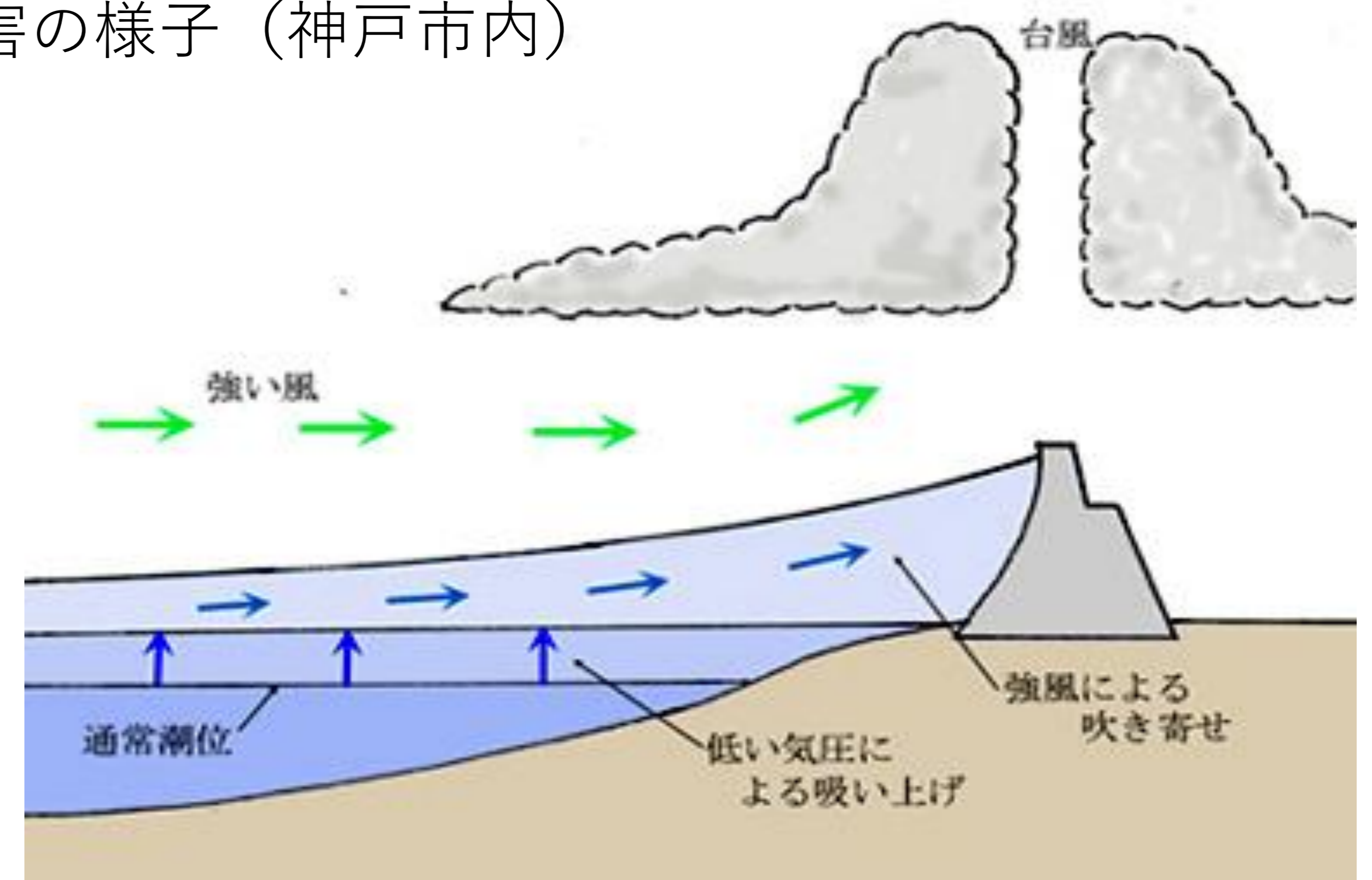
■高潮とは

高潮により流された車や船の被害の様子（神戸市内）

高潮とは、台風などの気象現象により海面の高さ（潮位）が長時間にわたって平常よりも高く盛り上がる現象です。台風の中心域での低い気圧による海水の吸い上げ（周りからの押し上げ）と、強風による海岸への海水の吹き寄せ、という2つの仕組みにより海面が高くなります。

台風第21号では、大阪湾の湾奥での約270cmの潮位上昇に対して、吸い上げによる効果が約70cm、吹き寄せによる効果が約200cm寄与していると推定されます。

なお、実際の潮位は、気象現象による潮位上昇に月などの引力に起因する潮位上昇（天文潮）が加わったものとなります。

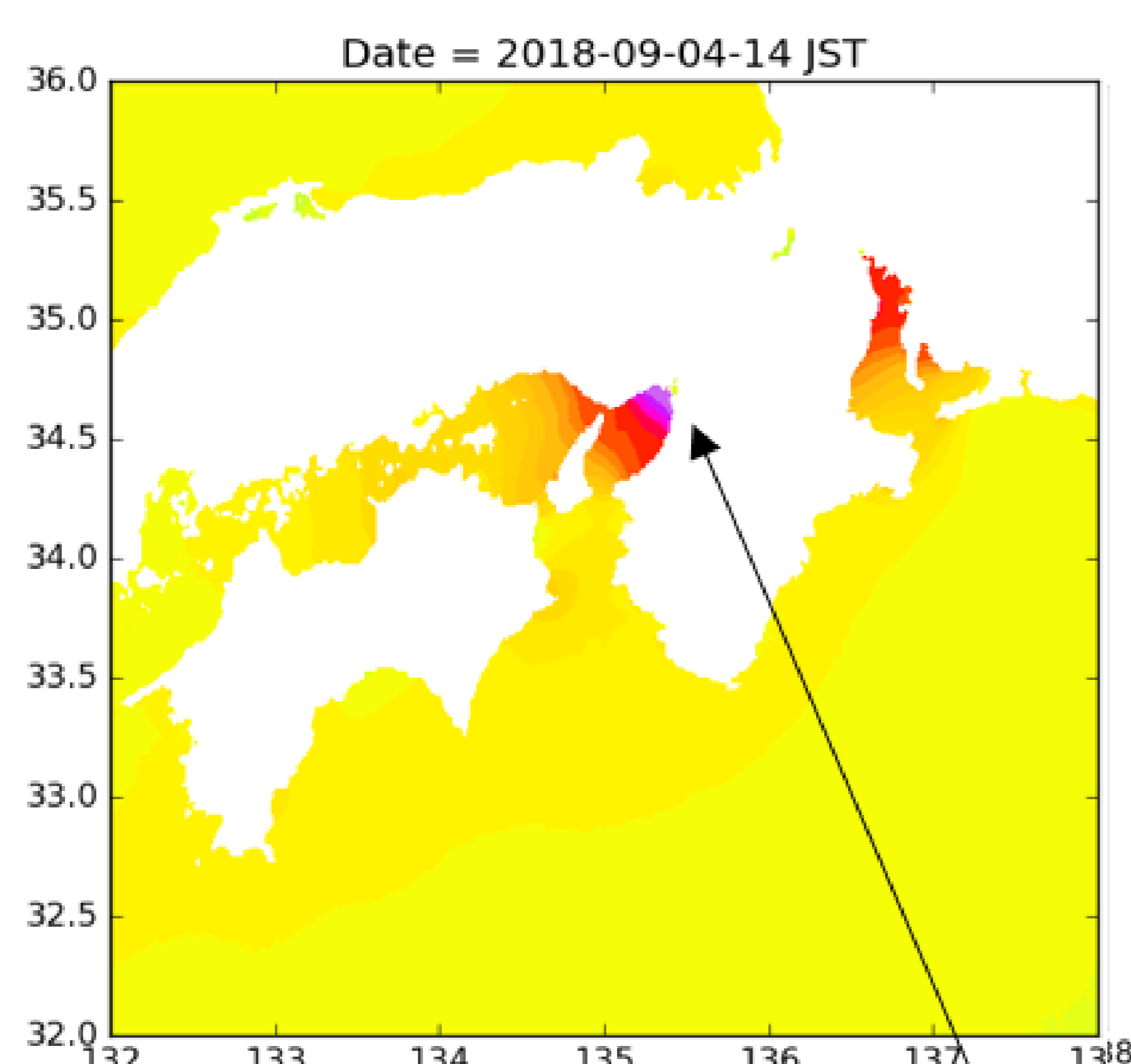


高潮の発生機構
(防災科研防災基礎講座より引用)

気圧+風：約270cm

気圧のみ：約70cm

風のみ：約200cm



大阪 約270cm
神戸 約150cm

